

第21回森と花の祭典

みどりの感謝祭



緑の少年団にお声をかけられる秋篠宮同妃両殿下

「みどりの感謝祭」は、「みどりの月間」(4月15日から5月14日)中の行事で、国民と森林・樹木・花などの自然とのふれあいを通じて、その恩恵に感謝することを目的として開催されています。

今年は、5月8・9日の両日にわたって、東京都日比谷公園において行われました。「森林の市」も併催され、会場は家族で森の恵みを体感できるフィールドとなりました。

晴天に恵まれた式典

今年で21回目を数える「みどりの感謝祭」。8日に開催された式典には、秋篠宮同妃両殿下が御臨席されるところにも、横路衆議院議長、江田参議院議長、郡司農林水産副大臣が出席されました。

この日の東京は、汗ばむくらい的好天に恵まれ、全国各地から集まった緑化活動や森林づくりに取り組む人々が見守る中、東京消防庁音楽隊の演奏に合わせて緑の少年団の子どもたちが入場行進を行い、式典が開始されました。

続いて、主催者を代表して郡司農林水産副大臣が「森林は国土の保全、水源のかん養など多面的機能の発揮を通じて広く恩恵をもたらしており、最近では地球温暖化防止や生物多様性保全の機能が着目されています。これら機能を高めていくには、適切な森林整備と国際材利用を進め、再び森林整備に



郡司農林水産副大臣による挨拶

還元することが重要であり、昨年12月に策定された『森林・林業再生プラン』に沿って、我が国の社会構造を「リンク社会から木の社会へ転換することを目指していきたい」と、開会の挨拶を行いました。

名誉総裁の秋篠宮殿下からは「緑化活動の輪がさらに広がっていくことを



「緑の募金」 街頭キャンペーン

みどりの感謝祭の式典終了後、東京・銀座の数寄屋橋公園で「緑の募金」街頭キャンペーンが実施され、緑の少年団やガールスカウトの子どもたちが中心となり、中央区観光大使、林野庁長官も参加し、「緑の募金」への協力を訴えました。緑の募金は、国民の自発的な森林整備活動を推進するものであり、直接森林づくりに参加する機会がない方も、募金運動への参加によって森林を支えることができます。

今年も多数の方から募金をいただきました。

「みどりの文化賞」は、緑豊かな国土と新しい森林文化の創造に資するため、(社)国土緑化推進機構によって平成2年に創設された顕彰制度で、緑や森林に関して顕著な功績のあった個人又は団体に送られるものです。

本年の「第21回みどりの文化賞」は、

みどりの文化賞は田中文男氏

願います」とのお言葉をいただきました。続いて「みどりの文化賞」の顕彰や、苗木と花の特別贈呈、山火事予防ボスター用原画入賞作品の表彰、緑の少年団代表による誓いの言葉などが行なわれました。



みどりの文化賞受賞
田中文男氏

田中文男氏(宮大工)が受賞されました。田中氏は、重要文化財の修復・復元のほか、木造住宅や一般建築の設計・施工も手がけ、「学者棟梁」として親しまれています。自由な発想で木造建築の可能性を探求し続け、新たな森林文化の創出に寄与してきた功績が評価されての受賞となりました。

贈呈式には、奥様の田中和子氏が代理出席され、横路衆議院議長より表彰状が授与されました。

みどりの感謝祭併催行事

もり「森林の市」



日比谷公園の木に登るツリークライミング(写真左)
さまざまな香りと感触が楽しめるかんなくずのプール(写真下)



「森林の市」には、木工品、山菜、きのこ等の豊かな森林の恵みや地方の特産品の展示販売、親子で楽しめる木工教室や丸太切りなどの体験コーナーのほか、草笛の演奏会などのアトラクションが行われました。